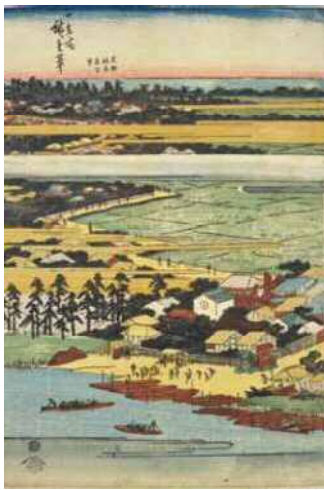


多摩川下流右岸に形成された穀倉地帯 家康の命でつくられた二ヶ領用水



広重の「東海道五拾三駅名所 川崎宿大師河原真景」には、川崎宿の背後に田んぼが描かれている。川崎大師近くを多摩川が流れていたが、海水が逆流するため稲作には不都合だった。二ヶ領用水が付近を穀倉地帯へと変えた(国立国会図書館蔵)

市民憩いの場となった 県下最古の灌漑用水路

神奈川県と東京都の境を流れる多摩川から取水し、川崎市内を流れる水路が二ヶ領用水だ。県下最古、国内でも有数の歴史を誇る灌漑用水で、土日もなると用水路に沿った道は、

ジョギングする人や散策する人たちが賑わう。

天下分け目の関ヶ原の戦いの3年前、徳川家康の命を受けた用水奉行・小泉次大夫が、慶長4(1599)年から工事に着手し、流域農民の協力も得ながら同16(1611)年に完成させた。



二ヶ領用水の上流域は自然環境や景観に配慮した親水地として整備されている。桜などの木が植えられ、散策にいいコースになっている。昔ながらの草履が残る場所もある。

洪水で荒れた地を 穀倉地帯に変えた 二ヶ領用水

家康の江戸入府に際し関東平野の開発は急務だった。多摩川はたびたび氾濫する暴れ川で、水の確保が難しく、流域は荒れていたため、幕府は治水対策の重点地に位置付ける。二ヶ領の名は、稲毛領と川崎領にまたがり開削されたことに由来する。測量から14年の歳月をかけて完成した用水は全長が約32キロ。網目のように水路が張り巡らされ、流域の米の生産量は飛躍的に伸びる。3代将軍家光が鷹狩りで当地を訪れた際に食して感激したという伝承もある、江戸時代のブランド米「稲毛米」も流域産である。

9(1724)年、老朽化が目立ったため、御普請役人の田中休愚が改修を行う。その結果、60カ村、2000ヘクタールの水田が潤い、辺りは大穀倉地帯となり人口も増える。しかし、干ばつ時における水争いも絶えなかったという。なかでも文政4(1821)年の「溝口水騒動」は最大規模のものだった。上流の稲毛領溝口村と久地村の農民が水を堰き止め、自分たちの村に水を引いたことよって川崎領は水不足となり、怒った農民1万数千人が蜂起した。多くの人が罰せられたものの、その後もしばしば水騒動は起こったと記録されている。



多摩川の2カ所から取水された用水は久地で合流し、下流の「久地円筒分水」で四つの堀に分水される。用水を平瀬川の下をくぐらせ、再び噴出させた水を、放水部円筒を4地区の灌漑面積の比率で正確に4分割して流す。昭和16(1941)年に県の技師・平賀栄治が設計したもので、国の登録有形文化財。

SPOT



立ち寄り所

大山街道ふるさと館

二ヶ領用水と大山街道が交差する大石橋近くに建つ資料館。大山街道に関するものや郷土ゆかりの人々の美術作品などが展示されている。二ヶ領用水についての展示も充実。入場無料【住所】川崎市高津区溝口3-13-3【電話】044-813-4705【開館】10:00~17:00【休館】年末年始 <http://furusatokan.web5.jp/>

SPECIALTY



神奈川の農業

水にも恵まれ、大消費地に近い神奈川は農業県でもある。全国のベスト10内の作物は、野菜ではキャベツが5位、ダイコンが6位、小松菜が7位、ホウレンソウとカボチャが8位。豆類は落花生が3位で、果物はキュウイフルーツが4位、みかんが9位。花卉はパンジーが2位でバラが6位(平成27年農林水産統計年報より)

農業から工業 水や自然に親しむ場へ 変貌した用水路

昔の人々の暮らしが
うかがい知れる施設

明治時代になると二ヶ領用水は、米や野菜だけでなく果物栽培にも利用される。大正初期には辺りにナシ畑が広がっていたという。ナシの品種である長十郎は当地が発祥だ。また、多摩川下流沿岸部が埋め立てられ京浜工業地帯ができるが、二ヶ領用水の潤沢な水は工業用水にも使われた。

二ヶ領用水はその400有余年の歴史で、農業と工業の発展に寄与した貴重な水路だ。明治時代には水が不足する横浜の飲料水として供給されたこともあるが、現在は市民が水や自然に親しむ憩いの場を提供している。

用水周辺にも自然が残り、都会の里山のような生田緑地も隣接する。

緑豊かな広大な丘陵地帯には様々な施設が建つが、「川崎市立日本民家園」では江戸時代の古民家を中心に、水車小屋や農村歌舞伎舞台など、文化財建造物が移築展示されている。国や県の重要文化財を含む25の建物の中には、二ヶ領用水流域に建てていた古民家もあり、当時の人々の暮らしを偲ぶことができる。



日本民家園には神奈川の八つの建造物以外に富山県や福島県などの古民家も【住所】川崎市多摩区枳形7-1-1【電話】044-922-2181【開園】9:30～17:00(11～2月は16:30まで)、月曜休園ほか【入園料】一般500円 <http://www.nihonminkaen.jp/>



二ヶ領用水に臨む生田緑地は市内最大の緑の宝庫。多摩丘陵の一角でもっとも高いところが標高84m。ホタルも舞う自然環境が維持された、まさに箱庭のオアシス。



立ち寄り所

岡本太郎美術館

生田緑地には「川崎市岡本太郎美術館」も。芸術家の岡本太郎は川崎市高津区生まれ。絵画や彫刻などの常設だけでなく随時企画展も【住所】川崎市多摩区枳形7-1-5【電話】044-900-9898【開館】9:30～17:00(入館は16:30まで)、月曜休館ほか【入館料】一般500円(企画展が開催されていないとき) <http://www.taromuseum.jp/>



EXPERIENCE

体験



日本民家園と伝統工芸館

日本民家園ではいろいろな体験も。機織りや糸紡ぎの実演見学、火おこしや草鞋づくり体験、地方の民話を聞く会など、年間を通じ様々なイベントが開催。敷地内の川崎市伝統工芸館では藍染体験もでき、ハンカチやバンダナなどを染めることができる(有料、事前申し込み)【電話】044-900-1101(川崎市伝統工芸館)



その他おすすめ スポット&情報

川崎大師の久寿餅

「かながわの名産100選」にも選ばれている川崎大師の定番土産の久寿餅。川崎周辺は妻の産地であったことから、葛以上の味わいを持つ小麦粉で「くす餅」をつくり舌の肥えた江戸っ子たちを満足させた。仲見世通りと表参道の各店で販売されている。



かわさき宇宙と緑の科学館

自然、天文、科学の三つの体験ができる生田緑地内の博物館。プラネタリウムでは世界最高水準のリアルな星空が広がる【開館】9:30～17:00、月曜休館ほか【入館料】無料(プラネタリウムは一般400円) <http://www.nature-kawasaki.jp/>



二ヶ領せせらぎ館

多摩川のことがることわかる資料館。ミニ水鏡館も【住所】川崎市多摩区宿河原1-5-1【電話】044-900-8386【開館】10:00～16:00(季節変動あり)、月曜休館ほか【入館料】無料 <http://www.seseragikan.com/>(写真提供:二ヶ領せせらぎ館)



ミニコラム 相次ぐ水害を機に行われた 酒匂川や相模川の治水事業

治水対策が行われたのは多摩川だけではなく。大久保忠世・忠勝親子によって行われた酒匂川の治水工事によって、合戦で荒れた足柄平野は大水田地帯へと変わる。慶長14(1609)年につくられた酒匂川の外形は約100年間維持された。宝永4(1707)年の富士山の噴火や正徳元(1711)年の大洪水などの災害を経て、一層強固なものとなった。関東大震災後は県内各地で治水工事も行われ、総合的な水害対策がとられている。上流に相模川と津久井湖の二つのダム湖を有する相模川は昭和22(1947)年の台風被害を契機に改修が実施された。



相模川を堰き止め、昭和40(1965)年に完成した城山ダムでできた津久井湖。治水や上水、工業用水の確保、発電などを担う。

歴史 散歩



Course 8

多摩川下流右岸に 形成された穀倉地帯 おすすめコース

～徒歩～電車

JR武蔵溝ノ口駅・東急・溝の口駅～大石橋～大山街道ふるさと館～久地門筒分水～JR武蔵溝ノ口駅
JR宿河原駅～二ヶ領用水取水口付近の小路～二ヶ領せせらぎ館～JR、小田急・登戸駅

300万人が初詣に訪れる
「厄除けのお大師さま」

川崎大師

金剛山金乗院平間寺

かわききだいし こんごうさん きんじょういん へいけんじ

読経の声が大きくなるにつれて、護摩を焚く炎が大きくなる。「厄除け大師」として知られる川崎大師の護摩祈祷は、日に5〜6回行われている。正式には金剛山金乗院平間寺である。真言宗智山派の寺院で、平安時代、元は武士であった平間兼乗が創建した。無実の罪により諸国を流浪後、川崎に住み着き漁師をしていた兼乗は弘法大師を崇信していた。日夜、厄除けの祈願をしていたところ、夢枕に

立った高僧に導かれ、海から弘法大師像を引きあげる。この像を本尊とし、大治3（1128）年に寺社を建立。兼乗の名から平間寺と名付けられた。今日の川崎大師であり、開創から約900年が経っている。「初詣は、川崎大師へ」。京浜急行のキャッチコピーだが、江戸時代までは、初詣という慣習はなかった。明治時代中期の鉄道の発展に伴い、郊外や遠方の寺社へのアクセスが



参拝客を迎える参道には多くの土産物屋が。久寿餅やせき止め飴を売る店などが客を呼び込む。

よくなり、慣習化していく。その始まりが川崎大師への正月参詣といわれている。京浜急行電鉄の前身は大師電気鉄道である。明治32（1899）年に川崎六郷橋から参詣客を運ぶため、川崎大師間での営業を始めた。そこから現在の京浜急行へと発展していく。初詣には毎年多数の人が参詣する人気のお寺。その数はランキングにも登場するほどである。



本尊の厄除弘法大師を安置する、大本堂は昭和39（1964）年に再建された。その他、境内には珍しい八角の五重塔も。

